



GMS Forum 2015

【特別パネル】

持続的成長投資への目利き、スチュワードシップ・コードと責務の変化

株式会社QUICK

取締役 ESG研究所長 広瀬 悦哉

2015年7月3日

※本資料に記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
※本資料に記載の画面例等はサンプルです。記載の内容は今後変更の可能性があります。

QUICK: ESG研究所

ESG研究所の役割

- ESG情報の提供
 - 機関投資家と企業
- ESGの課題に関する研究
 - 情報活用における専門知識やアドバイザリーサービスの提供
- 独立・中立的な立ち位置

2014年4月サービス開始から1年

この1年間の変化

2014年は「変化」の「はじまり」であった ➡

- **世界**：投資判断のパラダイムの変化
 - 金融危機以降、財務情報のみで企業価値を判断する事の限界を認識
 - 隠れたリスク
 - 海外機関投資家の「責任投資」へのシフト
 - PRI（国連責任投資原則）、CDPへの署名
- **日本**：スチュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コード
 - 「責任ある機関投資家」としての行動原則
 - 投資先企業の「持続的な成長」へ向けたエンゲージメントと議決権行使
 - 企業とその事業環境に関する深い理解（ガバナンス、社会/環境のリスク）
 - 企業の「持続的な成長」と中長期的な「企業価値の向上」
 - 自立的な対応と情報開示の拡充
 - 投資家と建設的に対話する姿勢

➡ 財務情報に加えて「非財務情報」がますます重要になる

現在：投資家と企業の対話が始まる

日本における動き：急速に世界の潮流に向かう

企業の持続的成長と企業価値向上

- ・投資家との建設的な対話
- ・適切な開示と透明性の確保
- ・ESG課題への取り組み
- ・取締役会の機能強化
- ・海外株主からの視点

コーポレートガバナンス・コード

企業に求める
変革

スチュワードシップ・コード

機関投資家が
果たす責任

- ・自社の責任・方針の明確な開示と報告
- ・企業との目的を持った対話
- ・企業の環境や社会に関わるリスクの把握
- ・議決権行使の責任
- ・スチュワードシップ活動の報告

加速する「ESG情報」へのニーズ

世界の投資家の視線 + 日本企業の成長戦略

- ESG情報を財務情報の一部として加える動き
 - 企業を様々な尺度で評価する試み
 - 偏りや体系化された評価項目・基準の欠如が課題
 - 開示情報の正確性、正当性が必要
 - 外部経済の内部化
- 加速するサプライチェーンへの責任拡大
 - 原材料から製造プロセスにおける自社以外の活動も広く含まれる



企業のサステナビリティへの取り組みを評価するニーズ

アセットオーナーのステュワードシップ

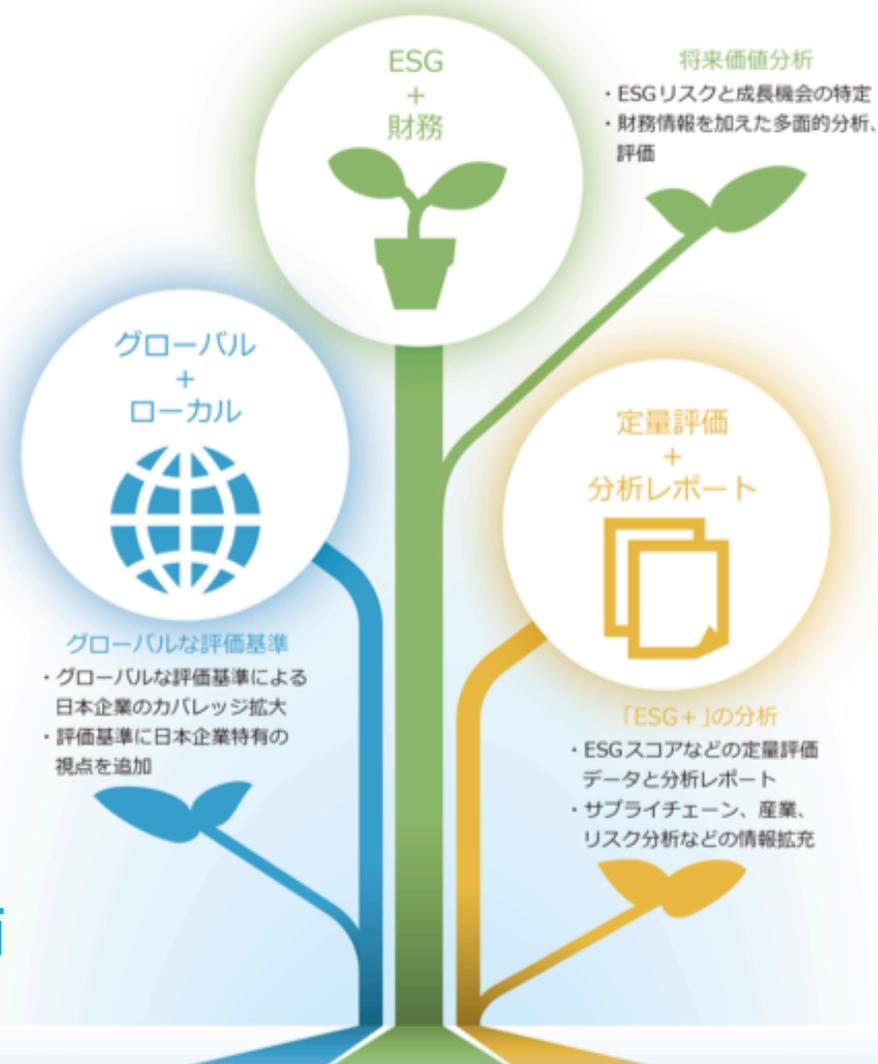
表面化してきたアクション：例

- 第一生命：対話
 - ✓ 保有銘柄が1,100社、内100社以上との対話を目標
 - ✓ (1)ROEの向上、(2)株主配分の充実、(3)ガバナンス強化
 - ✓ 専任の新組織「ステュワードシップ活動推進チーム」設置
- 日本生命：議決権行使
 - ✓ 議決権行使対象約1,800社
 - ✓ ROEの低い企業への働きかけ
- 明治安田生命：議決権行使
 - ✓ 議決権行使対象426社
 - ✓ ROEの低い企業の取締役選任に反対票
- 住友生命：投資
 - ✓ 医療・介護や環境などの成長分野や、対話型（エンゲージメント）ファンドへの投融資
- GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）：運用の要素
 - ✓ 「株式運用における考慮事項」の記述
「株式運用において、財務的な要素に加えて、収益確保のため、ESG(環境、社会、ガバナンス)を含めた非財務的要素を考慮することについても、資金運用について一般に認められている専門的な知見に基づき、検討する。」

QUICKの「ESGサービス」 – 3本の幹 –

QUICK が提供するESGサービス

- 豊富な財務情報とESG情報を融合させて分析する企業の将来価値
 - グローバルスタンダードな評価項目（CDPやEIRIS）と、日本特有の企業価値
 - 統一された定義とメソドロジーによる定量評価と、グローバル課題や業種別課題などの定性分析
- **E：環境、S：社会、G：コーポレートガバナンス**を体系化して評価



QUICKの「ESGサービス」 – 特徴と特典 –

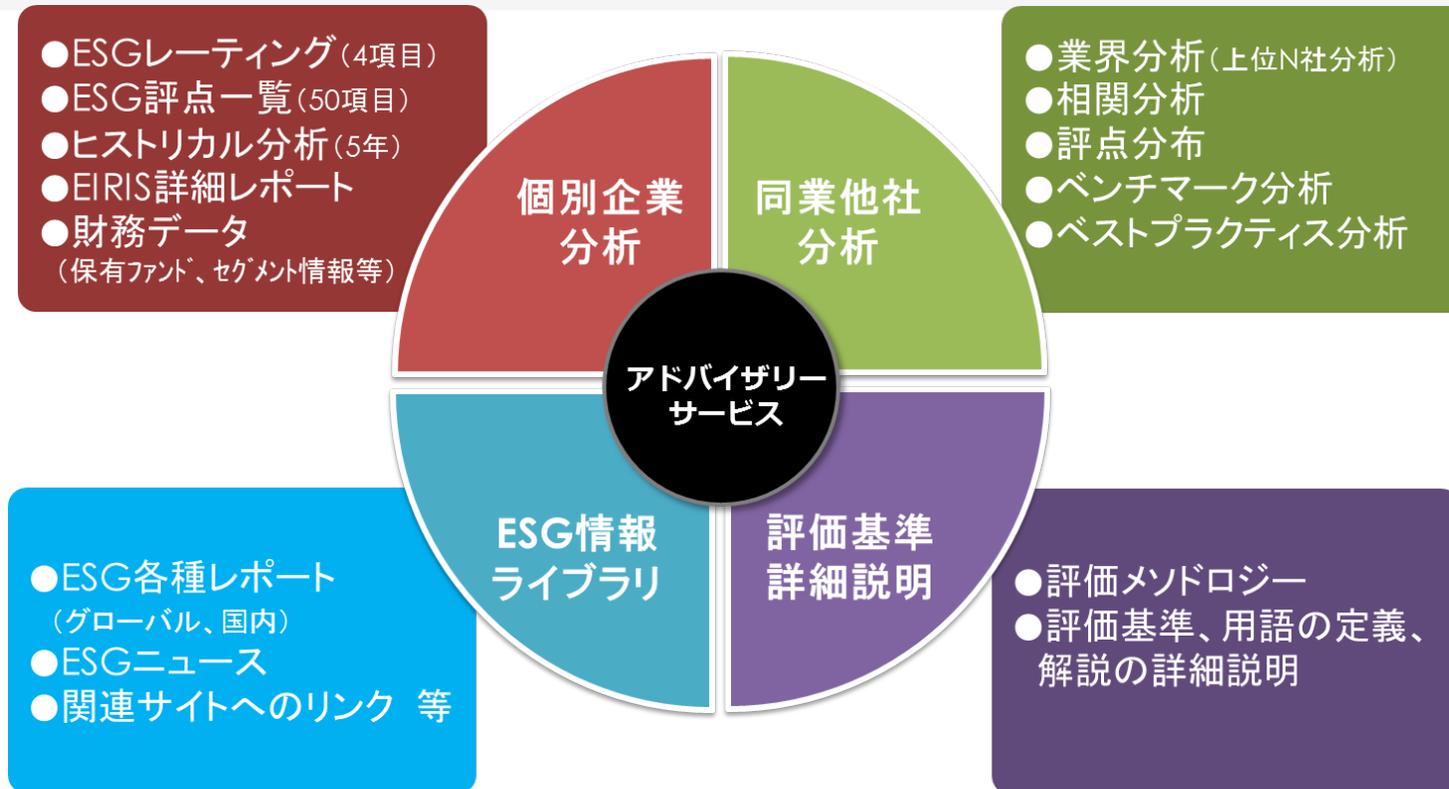
主な特徴

1. 英国で30年の実績のあるEIRIS社のESGデータ、詳細レポート
2. 世界の大手機関投資家が利用するグローバル企業データ
3. QUICK ESGアナリストによるサポート、データ解説
4. EIRISメソドロジーの詳細開示（背景と評価手法・基準等）
5. メンバーシップとして様々な特典

メンバーシップ特典

1. ESG企業分析Webサービス用 Official User IDを提供
2. 同業他社分析、Peer Group 分析
3. アナリストアクセス（質疑応答やブリーフィング）
4. QUICK ESG研究所オリジナルレポート（グローバル最新動向や総合分析など）
5. メンバーシップフォーラムへのご参加

QUICKの「ESGサービス」 – 提供コンテンツ –



データカバレッジ

- 国内外企業2,000社 (内、国内企業460社)
- E (環境) :15項目、S (社会) :24項目、G (ガバナンス) :11項目のスコア値
- レーティングはスコア値を元に、E・S・Gの各分野別と総合を5段階で評価
- 基本財務項目、サプライチェーンデータ
- 大株主 (関係者、機関投資家、ファンド)

QUICK ESG研究所 ポータルサイト

URL : <http://sustainablejapan.jp/quickesg>

about QUICK Corp.



株式会社QUICK ESG研究所について

株式会社QUICKは日本経済新聞社グループの金融情報サービス会社として1971年に創業しました。

QUICKのサービスは、日本の金融・証券市場を支える信頼性の高い情報インフラとして、証券会社、金融機関、機関投資家、一般事業法人や公的・私的年金基金、また、約1,200万の証券取引口座を通じた個人投資家の方々まで、幅広い層のお客さまにご利用いただいております。

2014年、ESG研究所を設立し、活動の第一弾として、英国EIRIS社のESG情報の提供を開始しました。また2015年2月にはESG情報やCDP、グローバルの財務情報をベースに、ピアグループ分析機能やアドバイザリーを合わせた事業法人向けサービスをリリースしました。企業のIR/ CSR/ 広報/ 経営企画/ 環境推進などの部門でご活用いただいております。

金融機関の日本版スチュワードシップ・コード受け入れが進み、一方企業にはコーポレートガバナンス・コードへの取り組みが求められる中、企業の持続的成長を支援するサービスを提供するとともに、PRIやCDPのパートナーとして業界発展に貢献してまいります。

お問い合わせ

QUICK ESG研究所

TEL 03-6733-9156

E-mail esg.mkt.ug@quick.jp